

## ゴシップの弊害と予防—完治した 144,000

箴言 26:20—22

たきぎがなければ火は消え、人のよしあしを言う者がなければ争いはやむ。26:21 おき火に炭をつぎ、火にたきぎをくべるように、争いを好む人は争いの火をおこす。26:22 人のよしあしをいう者の言葉はおいしい食物のようで、腹の奥にしみこむ。

箴 18:8 人のよしあしをいう者の言葉はおいしい食物のようで、腹の奥にしみこむ。

- ・人のよしあし=告げ口（陰口をたたく-新改訳、陰口を言う者-新共同訳
- ・争いは止む=いさかいは鎮まる-新共同訳。
- ・腹の隅々に下って行く-新共同訳



### I. ゴシップ(うわさ話)の弊害

#### 1. スタディーバイブル旧 879-881：うわさの流布は和合をそこなう。

①「兄弟たちは、時には何年もの間共に交際してよく知っている人々を、自分たちの家族を信頼すると全く同じくらい信頼できると考えている。同じ信仰を持っていない人たちとの間には存在し得ないこの関係には、自由と信頼がある。これは相互の信仰と兄弟愛が続く間は、非常にこちよいものである。



②しかし「兄弟を訴える者」が彼らのうちの誰かの心に入り込むことが許されると、思いと想像が支配されて、**嫉妬**が生まれ、**疑いとねたみ**が宿る。そして兄弟の愛と友情の中で安全だと思っていた人が、**自分が信頼されず、動機が誤解されていることに気がつく**。偽兄弟は自分の人間的な欠点を忘れ、神を汚し、聖徒の人格の中におられるキリストを傷つけることのないように悪を思わず、語らないという責務を忘れる。そして考えられる限りの、また想像できる限りの欠点がすべて容赦なく批評される。そして兄弟の人格が暗く、疑わしいものとして提示される。

#### 2. 聖霊に導かれて下 306

「神聖な信頼を裏切るということがある。兄弟を信用して語られた言葉が、歪められて伝えられる。あの人は高貴で立派な人物であり、まさか友人としての交わりや、兄弟としての信頼を利用するようなことはないだろうと思われる人の冷酷で**嫉妬心に満ちた批判**によって、**なんの悪意のない好意から出た行動や言葉の一つ一つが詮索される**。彼らの心は、神の憐れみと裁きと愛に対して閉じられ、サタンのように冷酷で軽蔑と冷笑に満ちた精神を彼の犠牲者に対して示す」。

#### 3. スタディーバイブル旧 879-881：

①「世の救い主はこのように扱われた。そして我々は同様の意地の悪い精神の感化にさらされている。友人や兄弟に信頼を置くのが安全でない時が来ている。

②「キリストの時代に**スパイ**たちが彼の跡をつけ回したように、彼らは今我々の跡をつけ回しているのであ

る。もしサタンが信者だと公言する者を、兄弟を訴える者として行動するために雇えるなら、大いに喜ぶことだろう。このようなことをする者たちは、無知のままにそうしているのかも知れないが、キリストを裏切った時のユダと全く同様に、本当はサタンに仕えているのである。サタンはキリストの時代よりも活動を減らしてはおらず、彼の働きをするために自分の力を貸す者は彼の精神を表すのである。

#### 4. ※追加説明大争闘下 378

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰(立場)を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、**以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。**安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、**サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。**そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」。

#### 5. 1SM122 (1887年)

「私たちは外側のことより、内側のことをはるかに恐れるべきです。力と成功を妨げるものは、この世よりも教会の中にあることの方がはるかに多いのです。神の戒めを守り、イエスの証を保つと告白する人々が、矛盾のない生活をし、敬虔な模範と活動的な影響力によってみ事業をほかの人々にまさって前進させ、尊ぶことを、未信者たちが期待するのは当然です。しかし、真理を擁護するという人々が、いかにしばしばその前進の妨げになっていることでしょうか。**不信**に身を任せ、**疑惑**を語り、**暗黒**の中にいることは、悪天使を呼び寄せ、サタンの手だてを成功させる道を開いてしまいます」。

#### 6. スタディーバイブル旧 879-881 より：

「うわさを流すことはしばしば兄弟の和合を壊してしまう。**飛び交う悪口(醜聞)に思いと耳を開いて、見張っている人々がいる。**取るに足りないかもしれないが、彼らはそのような出来事を集め、繰り返して誇張することによって、ついには一人の人間を犯罪者にしてしまう。彼らのモットーはまるで「**報告せよ、そうすればわれわれがそれをさらに多くのひとに伝えよう**」であるかのようだ。作り話をして歩くこれらの人々は、自分たちのしていることが神にとってどれほどの犯罪であるか少しも知らずに、驚くほどの忠誠さで悪魔のわざをしているのである。もし彼らがこの不潔なわざに**費やすエネルギーと熱意の半分でも自分の心を吟味するために用いたら、**自分の魂を汚れから清めるためにしなければならないことが多すぎて、兄弟たちを**批判する時間も気持ちもなくなり、**この誘惑の力に負けることはなくなるだろう。「彼らは言っている」とか、「私は聞いた」とかいうことに対しては、心の扉を閉ざしておくべきである。ねたみあるいは**邪推**を心に入れる代わりに、兄弟のところに行って、率直に、しかし親切に、彼らの品性と影響に不利益となるような事柄を聞いたのだがと言い、彼らのために共に祈るべきではないだろうか。我々はキリストの苦い敵である人々を愛し、仲間になることはできないが、我々の主を特徴づけている**柔和と愛**を培うべきである。それは、悪を思わず、容易に憤慨しない愛である(RH1884年6月3日)」。

※邪推＝他の人の行為を、悪い意味に、ひがんで推量すること。

#### 7. 聖霊に導かれて下 306,7

「小さな出来事が集められ、そのつまらない話が繰り返され一人の人が言葉で感情を害する者になるまで

誇張して伝えられます。彼らの標語は、「報告しなさい。我々はそれをさらに多くの人に伝えよう」なのです。このようなうわさを言いふらす人は、自分のしていることが、神のそむいているとは知らないかもしれませんが、驚くほど忠実にサタンの働きをしているのです。……「みんながそう言っている」「そんな話を聞いた」という声に対して「心の戸を閉ざさなければなりません」。

## 8. 初代文集 203-204 働き人の勇気を失わせる

①「ある人々は、神が、**使命者**を伝道地に召されたのは、彼らが自分たちの命ずるままに動き、自分たちを抱きかかえるためであると思っている。また、使命者たちの最も重要な働きは、自分たちが無分別な行動や、敵に敗北して、回りの人々に対して頑固でとがめだてる精神をあらわしたために、みずから招いたささいな試練や困難を、解決することであると考えている。しかし、この時に、飢えた羊は、いったいどこにいるのだろうか。彼らは、命のパンに飢えている。真理を知って、それを信じていながらもそれに従わない人々が、使命者を引きとめているために、神が彼らを伝道地に召された真の目的が達成されないのである。



②もし彼らが従っていたならば、このような多くの試練に会わなくてすんだのである。神のしもべたちは、教会内のこうしたことのために、心を痛め、勇気を失ってしまう。すべての人々は、彼らの重荷を少しでも軽くしないように努め、励ましの言葉と信仰の祈りによって、彼らを助けなければならぬ。もし真理を信じると公言する人々がみな、自分たちに対する助けをそんなに求めないで、まわりを見て、他を助けようと努めるならば、彼らは、どんなに自由になることであろう。ところが、神のしもべたちは、真理がまだ伝えられていない暗い所へ出かけるときに、彼らの兄弟たちが不必要な試練に苦しんでいるのを悲しみながら出て行く。こうしたことのほかに、彼らは、反対者の不信と偏見にあい、ある人々からは、踏みつけられるのである。

③もし神のしもべたちが、失望や試練に会わず、自由な気持ちで、真理の麗わしさを伝えることができるならば、人々の心に何と容易に感動を与えることができ、何と大きな栄光を神に帰することができるであろうか」。

## 9. 2SM71 他人の信仰を揺らがす

「我々は、不信やうわさ話を語る時がない。今は、悪魔の働きをする時がないのである。恨み、嫉妬、不和の種を蒔くことによって、他人の信仰を揺らがすことのないようにみんなが気をつけよう」。

## 10. ヤコブ 4:11

兄弟たちよ。互に悪口を言い合ってはならない。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者は、律法をそしり、律法をさばくやからである。もしあなたが律法をさばくなら、律法の実行者ではなくて、その審判者なのである。

## 11. 食事と食物への勧告 798： 他の人の生活を矯正しと思うとき

①他との関連性を無視して、個々の考えをとらえ、これを試金石にして自分の見解と合わない習慣を持つ人を非難したりせず、問題を広く深く研究し、自分の考えや習慣を真のクリスチャンの節制の原則と完全に調和させるよう努力しなさい。



②誤った習慣だと自分が考えることを攻撃して、**他の人の生活を矯正しようとする人々**が多い。彼らは間違ったことをしていると自分が考える人々のところに行って、彼らの欠陥を指摘するが、真の原則に人の思いを向けようと努力しない。そのような方法は、しばしば望ましい結果をもたらすのに極めて無益である。他の人々を矯正しようとしていることをはっきりさせると、彼らの闘争心をかき立てることがあまりにも多く、有害無益である。

③また、非難する者にとっても危険である。自分から進んで**他を矯正する者は、あら捜しをする習慣**を育て易く、間もなく自分の全関心が**人の弱点を指摘し、欠点を捜すこと**になってしまう。他の人の過失を指摘したり、彼らの誤りを暴露するために**監視すること**はしないようになさい。あなた自身の模範の力によって、より良い習慣へと彼らを教育しなさい。健康改革の大きな目的は、知性と霊性と肉体に可能な限り最高の発達を遂げさせることであることを常に覚えなさい。自然のすべての法則、すなわち神の法則は、我々の益のために計画されたものであって、これに服従することは現在における我々の幸福を増進し、来世のための準備をする助けとなる。

④他の人々の過失や弱点よりも重大な問題がある。神とその驚くべき御業について話しなさい。自然界の働きに見られる神の愛と知恵の現れを研究しなさい。(C.T.B.H.119-120,1890年)

## 12. 教会への勧告上 183 神のみ働きの進展を最も遅れさせる

「われわれを最も危険に陥らせるのは、世の反対ではない。信仰を公言する人々が心にいだいている悪が、われわれの最も悲しい災難を来たらせ、神のみ働きの進展を最も遅れさせるのである。互いにねたんだり、疑ったり、あら探しやさいぎ心に満たされること以上に、われわれの霊性を弱める確かな方法は他にないのである」。

## 13. 教会への勧告下 389 あら探し

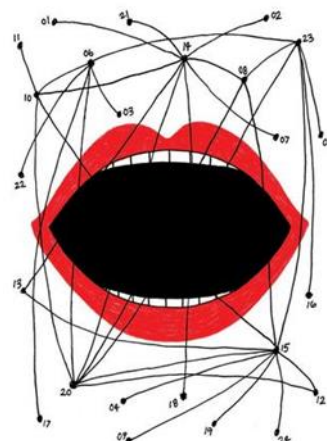
真理を長い間信じて来た多くの人びとの心の中に、きびしい、裁きの精神が侵入している。彼らは鋭く、批判的で、**あら探しをする人たち**である。彼らは、裁きの座に上り、自分たちの見解に一致しない者に判決を下す。

## 14. 教会への勧告下 16章：147～161 ゴシップの予防

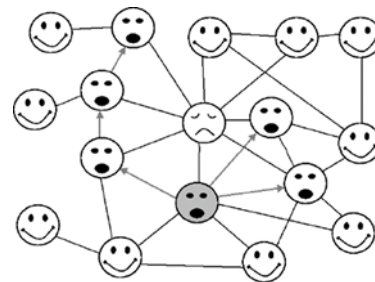
①他人の欠点を自分に聞かせる人はやがて機会が与えられるなら自分の欠点をも勝手に公表するだろうということをすべての人が覚えるなら**ゴシップをどれほど予防**できることであろう。どうしても悪く思わなければならぬ事態がくるまでは、すべての人、特に同信の兄弟たちに対しては、彼らをよく思うように努めるべきである。われわれは性急に他人の悪口を信じてはならない。これらの**悪口**はしばしば、**ねたみか誤解の結果**である。また間違った告げ口は**誇張や事実の部分的打ち明け話から**

**発展してくるものである。しつと②疑いは一度ゆるされると、あざみの冠毛**

**のようにたちまち広範囲にばらまかれ**してしまうのである。兄弟が道を踏みはずしたような時には、その時こそ彼に対してほんとうの関心を示すべきときである。親切に彼を訪れ、彼と共にまた彼のために祈りなさい。そしてキリストが彼の贖いのためにおはらいになった無限の愛を思い出しなさい。このようにして一人の魂を死から救い出すことができ、また多くの罪をおおうことができるのである。



③一瞥<sup>いちべつ</sup>、一語、あるいは声のあげ下げですら虚偽と重大なかかわりあいをもっていて、毒矢のように心臓に突きささって、**いやすことができない傷をおわす**ことがある。このように、疑いや非難が、その人によって**神が達成しようと計画しておられる人に投げかけられ、その影響力を弱め、彼の有用さを無効にしてしまう**のである。ある種類の動物の間では、その中の一匹が負傷して倒れると彼は直ちに他の動物たちに攻撃され八つ裂きにされるといふことである。これと同じ残酷な精神が、クリスチャンという名を負っている人たちによって抱かれている。彼らは、自分たちよりも罪の軽い人を石をもって打ち殺そうとするパリサイ的な熱心さをあらわしている。自分たち自身の欠点や失敗から人々の注意をそらすために、または神と教会のために熱心だという信望を得ようとして他人の欠点や失敗を指摘するものたちがいる。(5T五八、五九ページ)。



④キリストのしもべたちの動機や働きについて批評している時間を祈りに費やした方がはるかによい。もし他人の**あらさがし**をしている人たちが、その相手の人たちのほんとうのことを知ったら、その人たちのことについて全く異った意見をもつようになることがしばしばある。もしすべての者が他人を批評したり非難したりするかわりに、次のように言ったらどんなによくなることであろう。「わたしは自分自身の救いのために働かなければなりません。わたしの魂を救いたいと望んでおられるキリストと協力しているとすればわたしは精を出して自分自身を見守らなければならないのです。わたしはわたしの生活からすべての悪をとり除かなければなりません。わたしはキリストにあって新しく創造されたものとならなければならないのです。わたしはすべての欠点に勝利しなければなりません。そうすれば悪に対して戦っている人たちを弱くすることなく、はげましの言葉によって彼らを強めることができます。(8T八三、八四ページ)。

### しっと深い人は**他人のうちに善をみとめない**

⑤心配事や失望によって心がむしばまれ、気むずかしくまた短気にならないように注意しなければならない。争いを起こしたり、人を悪く思ったり、悪口を言ったりして神に罪を犯さないようにしよう。兄弟がた、もしあなたが、ねたみと悪い推測に対して心を向けるなら、**聖霊はあなたと共に住みたまわない**であろう。キリストの中にある充実を求めなさい。**キリストのみわざにはげみなさい**。すべての思いと言葉と行為の中にキリストをあらわしなさい。あなたがたは、使徒たちの時代に信徒の群を一致させた愛によるバプテスマを日毎に受ける必要がある。

⑥この愛は、からだと心と魂に健康を与えるであろう。あなたがたを、霊的生活を強めてくれる雰囲気をもってかこみなさい。**信仰と希望と勇気と愛を養いなさい**。**神の平和**をもってあなたがたの心を支配していただきなさい。(8T一九一ページ)

⑦**ねたみ**は単に誤った気質であるばかりでなく**一つの病氣**であって、身体のすべての機能を狂わせてしまうものである。その根源はサタンにある。サタンは天において第一人者になることを望み、求めていた権力と栄光を手にするのができないのを知るとこんどは神の政府に対して反逆をこころみた。彼はわれわれの始祖アダムとエバをねたみ、彼らを誘惑して罪におとし入れ、このようにして彼らと全人類を滅亡におとし入れたのである。

⑦人をうらやむ人は、他人のよい性質や高尚な行為に対して目を閉じる。このような人は、いつも、**すぐれたものをけなし、これを誤解しようとする**。人々はしばしば自分たちの過失を認め、またほかの欠点などを棄て去るものであるが、**ねたむ人からは殆んど期待できない**。人をねたむということは、自分がその人より

すぐれていることを自認することであるから、高慢な心は自分の欠点を認めようとはしないのである。ねたんでいる人の罪を認めさせようと説得がこころみられたとしても、相手に対するねたみの感情は高まるばかりで、しばしばそれは矯正されないまま持ち続けられる。

⑧ねたむ人は行くところどんな所にもその毒をまきちらし、友情をこわし、神と人に対して憎悪と反逆の精神をかき立てる。彼は自分自身を卓越した目標に到達させるために英雄的で自己否定的な努力をもってするのではなく、自分の方は今のままの立場にいながら、他人の努力によって得られたよいものをけなすことによって最善、最高の人物と思われることを求めるのである。

⑨悪を喜ぶ舌、噂話をきかせてください、わたしも聞かせてあげましょうなどとつまらぬ話をしてある者は地獄の火で焼かれると使徒ヤコブは宣言している。このようにしてもえさしが四方に散らされる。罪のない人の信望を傷つけ、うわさをふれまわした本人は一体どんな後始末をつけるのだろうか。彼は重荷の下にすでに沈みかけている人たちの希望と勇気をくじいてはいるが、その悪い行為を抑制することはないだろう。彼はスキャンダルを愛する傾向にふけるだけである。クリスチャンと公言している人たちでさえ、純潔で、正直で、高尚で愛すべきすべてのことがらに目を閉じ、いかがわしい、そしてどうかと思われるような不愉快なことがらを大事にし、そしてそれを世の中にふれまわるのである。(5T・五六、五七ページ)

### ねたみととがめる精神

⑩教会員の中に舌を制御できない人たちがいるということを使うのはなげかわしいことである。悪い行ないを食物としている偽りの舌がある。悪賢い、ひそひそとうわさをまきちらす舌もある。また、うわさ話やあつかましいおせっかいや、抜目なく人からうわさを聞きただすという手合がある。うわさ話を愛する人たちの中には、好奇心に動かされてそのような行為をする者や、ねたみに支配されてうわさを流す者がいるが、多くの者は、神が譴責するためにつかわされた人のことばに対する憎しみによってわるいうわさ話をふれまわるのである。すべてこれらの不調和な要素が働きを開始している。ある者たちは彼らの真の気持ちをかくしているが、他の者たちは他人の悪事について、知っている限り、あるいは疑っていることさえも全部ふれまわりたいと願っている。

⑪真理を虚偽に、善を悪に、無罪を有罪に変える偽証罪の精神さえ今活発に働いているのをわたしは見た。サタンは神の民と自称している人たちの状態を見て大喜びをしている。多くの者が自分たちの魂をおろそかにしている間に、彼らは他人を批評したり非難しようとして機会をうかがっている。すべての人は品性の欠陥をもっている。だからねたみの精神をもってみれば不当な行為と判断されるような行為をさがすのは困難なことではない。これらの自称裁判官は言う。「さあ、われらは事実を握っている。われわれは彼らが事実無根と主張できないような非難を負わせてやろう」。彼らは適当な機会がくるのを待ち、一組のゴシップを作りあげ、とっておきのニュースとして発表するのである。(週刊誌などのスクープ)

⑫要点を伝えようとしているうちに、生来強い想像力をもっている人は、自分自身と他人をもあざむく危険におちいる。彼らは、その言葉が急いで出されたものであること、だから話した人のほんとうの気持ちを反映していないかも知れないことを考えずに他人の不用意な表現を集めてしまう。しかし、しばしば注意にも値しないような小さな不用意のうちに出された発言もサタンの拡大鏡を通して見られ、くどくどと考えられ、繰返され、遂にモグラづかが山となってしまうのである。

⑬すべての浮動するうわさを集め、他人の品性に疑いを投げかけるようなことをみな摘発し、その人を傷つけるためにそれを用いることに喜びを覚えることがキリスト者の愛であろうか。このようにしてキリストに従うものの信望が失われ、または傷つけられるときサタンは大喜びをする。サタンこそ兄弟を訴える者なのであ



る。クリスチャンたる者がサタンの働きを援助してもよいのだろうか。

⑭神のすべてを見られる目はあらゆる人の欠点や各々を支配している欲情をみられるが、それにもかかわらずわたしたちのあやまちを忍びわたしたちの弱点をあわれんでくださるのである。神はわたしたちがこのような優しさと寛容の精神を持つように命じておられる。真のクリスチャンは他人の欠点や弱点を摘発して喜びを感じずるようなことはしないであろう。彼らは不道徳と欠点から離れ、魅力あり愛すべきことに心を向けようとする。クリスチャンにとって、**あさがし**のすべての行為、酷評、非難のすべての言葉は苦痛である。(5T・九四一九六ページ)

### 教会や機関の指導者たちに対する批判の影響

⑮うわさ話やむだ話の精神は、不一致や争いを播き、友人を離間し、わたしたち多くの者が持っている信仰を破壊するためのサタンの働きの一つである。兄弟姉妹たちはあまりにもしばしば、他の兄弟たち、特に神から与えられた譴責や警告のメッセージを勇気をもって与えてきた人たちのうちにあると思われる欠点や、あやまちについてうわさ話をしようとしている。

⑯これらの不平家の子供たちは**聞き耳をたててこれらの話を聞き**、不満という毒物を受け入れてしまう。このようにして両親たちは、子供たちの心に達する通路を盲目にもふさいでしまうのである。神の御名はこのようにして汚される。イエスは「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ二五ノ四〇)と言われた。このようにして、神のしもべたちを中傷する者たちによってキリストは軽視され誤解されるのである。

⑰神に選ばれたしもべたちの名は無礼な取りあつかいをされてきた。またある場合には、当然支持すべき立場にある人たちから決定的な侮辱さえ受けてきた。その子供たちは、神のしもべたちに対する両親の不遜な発言に耳を傾けないわけにはいかなかった。子供たちは、時にふれては彼の耳に入ってくる軽べつ的な冗談やけなすような話の意味を理解するようになり、その結果、彼らの心の中には、神聖で永遠的なことから世俗の普通のことからのレベルで考えるようになってしまった。自分たちの子供を、幼い時にすでに不信の徒にしてしまうとは、一体この両親たちは何ということをしているのであろうか。このようにして、子供たちは、罪に対する天からの譴責に尊敬の念をもたず、これに反逆することが教えられるのである。

⑱そのような罪がある限りそこに**霊的衰退**が起らざるを得ない。敵によって盲目にされたこれらの父親や母親たちは、どうして子供たちが不信仰に傾き、聖書の真理を疑うようになったのかと不審に思っている。道徳的宗教的感化を子供たちに及ぼすことの困難さに当惑する。彼らがもしも霊的視力をもっていたら、このなげかわしい状態が、彼ら自身の家庭的感化の結果であり、ねたみと不信の所産であることに気付くであらう。このようにして多くの不信心者が自称クリスチャンの家庭において教育されるのである。

⑲神の御事業の機関に関係して重い責任を負っている人たちの欠点について、それがほんとうのことであろうと、想像上のことであろうとを問わず、語り合ったり、考えたりすることに特別な喜びを感じる人たちが多くいる。彼らは、聖事業に対する熱心な働きと確固たる献身の結果達成された成功や便益などを見過ごし、間違いと思われることに彼らの注意を向ける。仕事が進行し、その結果があらわれた後に、もっといい方法でなされるならよい結果があらわれる筈であったのにと考えるのである。しかしほんとうは、彼らに仕事が任せられたら、落胆させられるような事態のもとでは全然仕事を引受けもしないし、また前の人が神の摂理によって道が開かれたとき、それに従って達成した仕事より手際よく処理することはできないであらう。

⑳しかしこれらの始末におえないおしゃべり屋は、ちょうど地衣類が荒々しい岩石にしがみつくように、働きのよりみにくい面に目をつけるのである。これらの人は常に他人の失敗や欠点を考えているので**霊的にこびと**になっているのである。彼らは立派で高尚な行為、無我の働き、真の英雄的行為、自己犠牲などを識別する道徳的能力をもっていない。彼らはクリスチャンの生活を特徴づける愛の精神を養っていないのである。彼らは偏見と間違っただけの見方のために日毎に退化し、狭い考え方になっている。彼らは小人であって、彼らをかこむ雰囲気は平和と幸福に有害である。(4T・一九五、一九六ページ)

㉑すべての機関は困難と戦わなければならないであろう。試練は神の民を試すためにゆるされている。主の機関の一つが逆境におちいるとき、神とその聖業に対してわれわれがどれ位ほんとうの信仰をもっているかがあらわれるであろう。そのような時には、誰も最悪の面を見て、疑惑と不信のことばを出すことのないようにすべきである。責任の重圧のもとに事を運んでいる人を、批評したりしないようにしなさい。あなたがたの家庭の会話を主の働き人に対する批判をもって毒さないようにしなさい。批評ばかりに耽っている親たちは、子供たちを賢明に育てて救いに至らせるために何も与えていないのである。彼らのことばは、子供たちばかりではなく、もっと年長の者たちの信仰と信頼をも乱し、不安定なものにしてしまうのである。(7T・一八三ページ)

㉒われわれの学校の管理者は、彼らの保護のもとにある青年たちの秩序を保ち、賢明に訓練するという最も困難な働きに携わっているのである。教会員は彼らの手を支えるために多くのことができる。青年たちが、学校の訓練方針に喜んで従おうとしない時に、または目上の人の意見と違うことを自分勝手にしようと決意するとき親たちは、自分の子供たちを盲目的に支持し、これに同情してはならない。

㉓あなたの子供たちが、真理と同胞と神に対する忠誠さの根底に横たわっている原則を軽視するよう教えられるよりは、苦しみを受け、墓に横たわる方がはるかによいことである。

### 自分自身に対する批判だけは実際の価値がある

㉔クリスチャンを自認しているすべての人が、他人の間違ひについて語る代わりに、**自分自身のうちに矯正する必要がある悪を認めるために探索する力を発揮するならば、今日の教会はもっとはるかに健康な状態になるであろう。**主が彼の宝石をお造りになるとき真実な者、率直な者、正直な者という宝石は喜びをもって眺められるであろう。天使たちはこのような宝石をもって王冠作りに携わるのである。そして神の御座から放射する光がこれらの星をちりばめた冠に反映して光り輝くであろう。主は今神の民を試みこれを立証しておられる。あなたがたは、**自分の品性の欠陥に対しては、満足のゆくまで厳しく批判してもよい。**しかし他人に対しては、親切で、憐み深く、思いやりのある態度を示しなさい。毎日自分は心の底まで健全であろうか、それとも偽りがあるだろうかと自問してみるとよい。この点においてすべての欺瞞から救われるように主に願い求めなさい。このことには永遠の重要性がかかわり合っているのである。愛する兄弟たちよ、多くの者が名誉を熱望し、利益を追求している時、あなたがたは、神の愛の保証を熱心に求め、また、自分の召命とえらびを確実にする方法を示して下さる方は誰かと叫んでいるだろうか。

㉕サタンは人間の生来の罪を注意深く研究し、その後、彼らをそそのかし、陥れる働きをはじめる。われわれは誘惑のただ中におかれる。しかし、もし主の戦いに男らしくふるまうならば勝利はわれわれの側にある。われわれはみな危険のただ中におかれている。しかし、もし謙虚に祈り深く進んで行くなれば、純粋な黄金より、オフルの黄金のくさびよりも貴い精錬過程から出されるであろう。もし不注意で祈ることを怠るなら、やかましい鐘や騒がしい鑢鉢のようになってしまおう。(5T・九六一九八ページ)



1. いやすことができない傷をおわすことがある。
2. 一致を壊す
3. 教会を弱める! FW 79.

「話すというタレントの誤用ほど教会を弱めるものはほかにない! LHU 284

## 15. 詩 : ISN'T IT STRANGE 不思議なものですね。

- ・教会に 20 ドルの献金は大金のように思うが、買い物するときの 20 ドルは何と少ないものでしょうね。不思議なものですね。
- ・教会で過ごす 2 時間は非常に長く感じるが、野球をしている時は非常に短く感じる。不思議なものですね。
- ・祈りの言葉は見つからないが、友達に何を話すかは何の問題もない。不思議なものですね。
- ・聖書の 1 章を読むのに難しく、飽きあきするのに、人気のある小説を 100 頁読むのはなんと優しいことだろう。不思議なものですね。
- ・コンサートや、ゲームでは、一番席を欲するが、なぜか教会では一番後ろに座りたがる。不思議なものですね。
- ・他の人々に霊的なことについて話すのはなかなか困難なのに、ゴシップ(うわさ話)を学び、理解し、広げるにはなんとたやすいことか。不思議なものですね。

## 16. アドベンチストホーム 503

うわさ話と、うわさの言いふらし— 人食い人種が、まだ生暖かいびくびく動くえものの肉を食べている光景は思っただけでもぞっとするが、しかしこういう行為よりもっと恐ろしい結果は、真意を誤り伝えられたり、評判を傷つけられたり、品性を批判されたりすることなどによって生ずる苦悩と破滅である。こうしたことについて神が「死と生とは舌に支配される」(箴言一八ノ二一)と仰せになっているみことばを、子供たちも青年たちも学ばなければならない。

うわさ話と、うわさを言いふらす精神は、サタンが不和と争いの種をまき、友を引きはなし、私たちの立場の真実性に対する多くの人の信念をぐらつかせるための特別な働きである。

## 17. ことわざ：

●「駟(し)も舌に及ばず」—言葉の伝わるのは早いから、四頭立ての馬車(=駟)で追いかけても追いつかない意で、言葉はつつしむべきだというたとえ。

### ●「駟不及舌」とは

一度口から出た言葉は、四頭の馬車で追いかけても、もはや追いつくことができないから、口は慎むべきものだという教訓。

## 18. 聖句

- ・箴言 20:19 歩きまわって人のよしあしをいう者は秘密をもらす、



くちびるを開いて歩く者と交わってはならない。

- ・レビ 19:16 民のうちを巡り巡って、人の悪口を言いふらしてはならない。あなたの隣人の血にかかわる偽証をしてはならない。わたしは主である。
- ・ガラ 6:10 だから、機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。

### 聖所の清めと言葉の関係：

- ・マタイ 15:11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。

「純潔と不純は魂の問題である」。

#### 19. アドベンチストホーム 496

「言語は内部の美德が外部に表現されたものである— ことばについて最大の必要は、それが純粹で親切で真実でなければならないことである。ことばはすなわち「心の美德が外部に表現されたもの」でなければならない。……言語学習の最上の学校は家庭である」。

#### 20. アドベンチストホーム 302

①「必要以上の厳格さから生じる結果— しばらく前、わたしはJ の場合を示された。彼女の過誤や思いちがいが詳細に彼女の前に描かれた。しかしわたしに示された最後のまぼろしで、彼女にまだ悪い点があること、すなわち彼女が夫の子供たちに対して冷たく同情がないことを示された。彼女は大きな過失を正したり譴責したりするだけでなく、大目で見ろべき小さな事がらに対してそうする。

②しょっちゅうあら探しをすることはよいことではない。キリストのみたまはそうした精神をもった心にとどまることがおできにならない。彼女は子供たちの中にある良いものに対して賞賛のことばを一言も言わずに、何か悪いことが見えるとすぐに非難のことばを投げかけようとする傾向がある。

③このことは子供たちをいつも失望させ、不服従の習慣をつける。それは心の悪を刺激して、どろやごみを吐き出させる。しょっちゅうしかられている子供たちには、「かまうもんか」という気持ちが起こり、結果を考慮せずに、悪い感情をたびたび表わす。

#### 21. 2 希望 151

よい働きが始められるといつでも、あら探しの名人が形式や規則的なことについて口を出し、大事な実際問題から人々の心をそらそうとする。神がご自分の民のために特別な方法で働こうとしておられるようにみえるときには、魂を滅ぼすことにしか役立たないような論争にさそいこまれてはならない。われわれにとって最も大事な問題は、わたしは救いの信仰をもって神のみ子を信じているだろうか、わたしの生活は神の律法と一致しているだろうかということである。「御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがない」「もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである」(ヨハネ三ノ三六、ヨハネ第一・二ノ三)。

#### 22. 教育 343

①悪を正すとき気をつけなければならないことは、あら探しやとがめだての傾向である。始終とがめてばかりいると、正すよりもむしろ当惑させる。たいていの子供たちにとって、特に繊細な感受性を持っている子供にとっては、同情の欠けた批判的な空気は本人の努力を殺してしまう。冷たい風の中では花は開かない。

②ある特別な欠点をしかられてばかりいる子供は、その欠点をどんなに努力しても直すことのできない癖であるかのように思いこむものである。こうして失望から落胆の気持ちが生ずると、むとんちゃくやからいぼりを装ってそれをかくそうとするようになる。

③しかるといふことの真の目的は、悪いことをした本人がその過失をみとめてこれを直そうという意志を持ったときにはじめて達せられるのである。この目的を達することができたなら、つぎに許しと力の源を示さなければならぬ。本人に自尊心を保たせ、勇気と希望を鼓舞しなければならぬ。

④この働きは人間にゆだねられたもつともりつばなそしてまたもつとも困難な働きである。そのためにはもつとも巧みな機知と繊細な感受性と、人間性についての知識と天来の信仰と忍耐と、働き見守りそして待つ気持ちがなくてはならない。これはどんなことよりも大事な働きである。

## 23. 144,000 はゴシップ病から完治される人々

①ヤコブ 3:2 わたしたちは皆、多くのあやまちを犯すものである。もし、言葉の上であやまちない人があれば、そういう人は、全身をも制御することのできる完全な人である。3:3 馬を御するために、その口にくつわをはめるなら、その全身を引きまわすことができる。3:4 また船を見るがよい。船体が非常に大きく、また激しい風に吹きまわられても、ごく小さなかじ一つで、操縦者の思いのままに運転される。3:5 それと同じく、舌は小さな器官ではあるが、よく大言壮語する。見よ、ごく小さな火でも、非常に大きな森を燃やすではないか。3:6 舌は火である。不義の世界である。舌は、わたしたちの器官の一つとしてそなえられたものであるが、全身を汚し、生存の車輪を燃やし、自らは地獄の火で焼かれる。3:7 あらゆる種類の獣、鳥、這うもの、海の生物は、すべて人類に制せられるし、また制せられてきた。3:8 ところが、舌を制しうる人は、ひとりもない。それは、制しにくい悪であって、死の毒に満ちている。3:9 わたしたちは、この舌で父なる主をさんびし、また、その同じ舌で、神にかたどって造られた人間をのろっている。3:10 同じ口から、さんびとのろいとうが出て来る。わたしの兄弟たちよ。このような事は、あるべきでない。3:11 泉が、甘い水と苦い水とを、同じ穴からふき出すことがあろうか。

②黙示録 14:1 なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。14:2 またわたしは、大水のどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。14:3 彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。14:4 彼らは、女にふれたことのない者である。彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。14:5 彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。

③詩篇 139:23 神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。139:24 わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください。

④詩篇 77:6 わたしは夜、わが心と親しく語り、深く思うてわが魂を探り、...

⑤大争闘下 224「われわれは、今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのために贖罪を なしている間、すべての者は、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって、魂を悩まさなければならなかつた。もしそうしなければ、彼らは、民の中から絶たれるのであつ



た。それと同様に、自分たちの名がいのちの書にとどめられることを願うものはみな、今、残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に魂を悩まさなければならぬ。われわれは、心を深く忠実に探らなければならぬ。多くの自称キリスト者がいっている軽薄な精神は、捨て去らねばならない。われわれを打ち負かそうとする悪癖に勝利しようとする者は、みな、はげしく戦わなければならない。準備は、一人一人がしなければならぬ。われわれは、団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあってはならないのである」

## 24. 予防と治療

ピリピ 4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらも聖霊に導かれて下 306,7

「小さな出来事が集められ、そのつまらない話が繰り返され一人の人が言葉で感情を害する者になるまで誇張して伝えられます。彼らの標語は、「報告しなさい。我々はそれをさらに多くの人に伝えよう」なのです。このようなうわさを言いふらす人は、自分のしていることが、神のそむいているとは知らないかもしれませんが、驚くほど忠実にサタンの働きをしているのです。…。「みんながそう言っている」「そんな話を聞いた」という声に対して心の戸を閉ざさなければなりません」のを心にとめなさい。

